

「河川名標識」を活用した広報活動

川崎フロンターレ・F C 東京

×

多摩川流域治水プロジェクト

北沢 宏貴

関東地方整備局 京浜河川事務所 河川環境課 (〒230-0051 横浜市鶴見区鶴見中央2-18-1)

河川名標識は、川に対する関心と親しみを深め国民に広く周知させることを目的とし、主に橋梁付近に設置されている。設置後相当の年数が経過しており、老朽化や錆・落書きが酷い状況であった。多摩川の沿川自治体である川崎市の川崎市市制100周年記念・全国都市緑化かわさきフェアの開催に併せ、多摩川の河川名標識のリニューアルを実施することとなった。これをご当地標識として制作し、多摩川広報に繋げるべく今回、川崎フロンターレ、F C 東京の協力を得てクラブカラーをイメージした河川名標識を設置した。プロスポーツチームとコラボした河川名標識は全国初。

キーワード 河川名標識、多摩川流域治水プロジェクト、ご当地看板、川崎市市制100周年、全国都市緑化かわさきフェア、川崎フロンターレ、F C 東京

1. はじめに

多摩川は、全長138km、流域面積は1,240km²。山梨・東京・神奈川県を流れる一級河川である。このうち京浜河川事務所は、河口から万年橋までの64.3kmを管理している。沿川自治体のひとつである神奈川県川崎市は、多摩川右岸に位置し、約28kmの区間に渡り、多摩川に接しており、「ふるさとの川・多摩川」とシンボルに掲げて、かねてより多摩川に関する様々な取り組みを実施してきている。



図-1. 多摩川京浜河川事務所管理区間マップ

(1) 川崎市市制100周年記念事業

この川崎市では、2024（令和6）年に市制100周年を迎え、また、全国都市緑化フェアの開催が予定され、これに取り組むべく「川崎市市制100周年記念事業・全国都市緑化かわさきフェア実行委員会」が設立され、京浜河川事務所も構成団体の一員として参画している。

川崎市では、全国都市緑化かわさきフェアの開催を機に、みどりの力を活かし、市民、企業、大学、行政等の多様な主体との共創により『みどりでつなげる、暮らしやすく、住み続けたいまち』の実現を目指し、みどりの文化を醸成するため「みどりの共創プロジェクト」を立ち上げた。

(2) 全国都市緑化かわさきフェア

全国都市緑化フェアは、市民一人ひとりがみどりの大切さを知るとともに、みどりを守り、たのしめる知識を深め、みどりがもたらす快適で豊かな暮らしがあるまちづくりを進めるため、1983（昭和58）年から毎年、全国各地で開催されている「花と緑の祭典」である。

全国都市緑化かわさきフェアは、2024年（令和6）年10月19日～11月17日、2025年（令和7）年3月22日～4月13日に開催され、メイン会場のひとつである等々力緑地エリアは、多摩川に隣接し河川敷においても各種イベントが予定されている。

2. 多摩川の現状確認

全国都市緑化かわさきフェアの開催期間には、多摩川においても、多数の人が来客すると想定される。多摩川の現状について、現地を中心に確認した。

(1) 利用状況

堤防天端は、歩行者自転車道として占用されており、散歩やサイクリング等で利用されている。河川敷の大部分は、公園やグラウンドとして占用されている。休日ともより、平日においても相当数の利用者が見られる。

表-1 多摩川水系の年間利用者数

項目	年間推計値 (千人)		
	2009年度 (平成21)	2014年度 (平成26)	2019年度 (平成31)
水面	236	143	102
水際	989	585	415
高水敷	12,469	11,566	7,846
堤防	4,871	5,512	3,382

(2) 河川名標識

現地を確認した際に、改めて確認されたのが堤防天端に設置された「河川名標識」であった。

この標識はもともと、橋梁利用者への視認のために設置されたものであるが、堤防天端の利用者に対して、非常に目立つものとなっている。

多摩川では、81箇所河川名標識が存在しており、川崎市区間では、22箇所に設置されているが設置から相当の年数が経過しており、劣化・損傷、落書き等で非常に見苦しい。



図-2. 河川名標識の現状

3. 河川名標識を活用したPR

多数の来場が見込まれる全国都市緑化かわさきフェアが開催されるのに合わせて、河川名標識の補修（リフレッシュ）を行うことが計画された。このリフレッシュにあたり多摩川のPRを行うべく検討を開始した。

(1) 河川標識の規格等

河川名標識のリニューアルにあたり、基準等を確認した。主なポイントを以下に示す。

形状：標識板（900mm×1,800mm×2mm）の両面表示。

材質：標識板は、アルミ製でt=2mm。

色彩：標識板は、濃紺に白文字又は黄文字、門型ポールは、白色を標準。

※標識板の色彩は背後地によって白色に緑文字、緑色に白文字、青色に白文字等を使用することによって、景観に合う色彩を用いてもよい。

書体：漢字及びひらがなは、丸太ゴシック体。

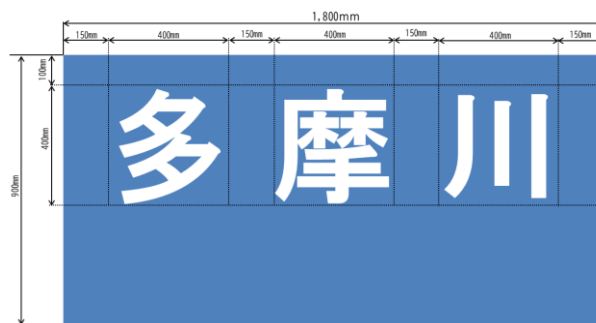


図-3. 標識板のデザイン

(2) ご当地河川名標識事例

基準では、デザイン（文字）及び色彩が決められているところであるが、PRのために各地域の特色を活かしたデザイン=ご当地標識の事例を調査したところ、九州地方整備局宮崎河川国道事務所において、地域の人が川を身近に感じ、より多くの人に川に興味をもってもらえるよう、各地域の名所や名産品等を取り入れたデザインを採用した事例があった。この標識は、大学教授がデザインした非常にスタイリッシュな仕上がりとなっており、多摩川においても手本にすべきと考えた。

参考に過去に設置されたご当地(?)デザイン標識を示す。



図-4. 特殊な河川名標識（多摩川の事例）

4. 川崎フロンターレとの連携

多摩川でのご当地標識のデザインについて、職員でアイデア出しを行ったものの、宮崎河川国道事務所の標識のようなデザインを作成することは、難航した。

そのような状況の中で、日本プロサッカーリーグ（Jリーグ）に加盟するプロサッカークラブ「川崎フロンターレ」のスタッフと打合せする機会があった。

(1) 川崎フロンターレの多摩川での活動

川崎フロンターレは川崎市をホームタウンとし、地域貢献活動、社会貢献活動に積極的なクラブで、多摩川においても、選手会、川崎市、とどろき水辺の楽校と京浜河川事務所と共催し、サポーター参加型で清掃活動と、多摩川により親しみを持ってもらうための体験学習を2008年から継続的に行っている。

(2) 川崎フロンターレからの提案

川崎フロンターレの清掃活動は、東横線多摩川橋梁～丸子橋周辺で実施されているが、当該箇所の河川名標識は老朽化がひどく、見かねた関係者から塗装を清掃活動と併せて実施できないかとの相談であった。クラブカラーの塗装を施したら話題となる、まちを盛り上げる観点から何かお手伝いができないかという提案をいただいた。

京浜河川事務所としては、川崎フロンターレの知名度を活用し多摩川のPRに繋がること、また河川名標識のデザイン作成についても行き詰まっていたこともあり、コラボについて進めるべく検討・調整を開始した。

(3) 川崎フロンターレとコラボの実現に向けて

河川名標識は公共のものであり、企業PRのために使用するものではない。費用負担やデザインコンセプト、その他の約束事など検討すべきことは山ほどあった。

a) コラボを実施する企業・団体

将来的な展開を考え、コラボする企業・団体の条件について整理する必要がある。多摩川のPRのためであることを鑑み、多摩川において各種活動を実施している企業・団体が望ましいと考えた。

川崎フロンターレは、多摩川において各種活動を行い、既に多摩川の啓蒙活動にも貢献しており、また、その知名度は川崎市内はもとより、全国においても高い。

b) 役割分担と費用負担

老朽化した標識の交換であり、これにかかる費用については、河川管理者の負担とし、デザインについては川崎フロンターレにおいて作成するものとした。また、広報活動についても、川崎フロンターレが担うこととされた。

c) 標識の基準とPR板

標識には、アルミ板にシールを貼ることとした。これはコスト面でも優位であるとともに、落書き等への対応が容易にできることから採用した。企業名については、入れることなく、標識板の下部のスペースに新たに板を設置し、このPR板で各種情報を掲載することとした。標識板は両面とも同じデザインとし、PR板は片面とした。これは一般の利用者の安全性を考慮したためである。

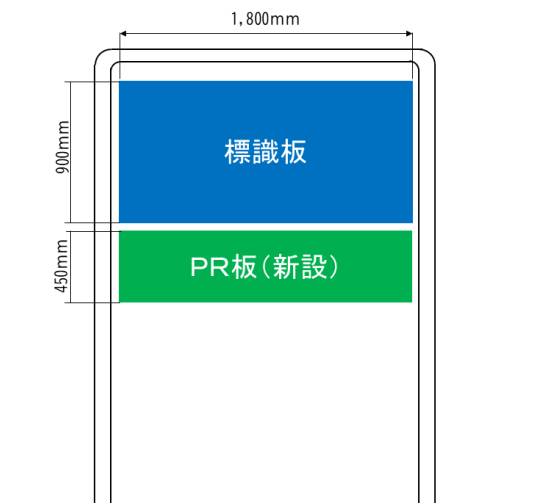


図-5. PR板の設置位置

5. 河川名標識リニューアルとお披露目式

デザインについては、川崎フロンターレとの打合せを経て、PR板も含め決定された。また設置後にお披露目式を実施することとした。

(1) 河川名標識デザインの決定

背景を川崎フロンターレのユニホームを模したものとし、多摩川の文字を書いたシンプルかつスタイリッシュな仕上がりとなった。

(2) PR板のサイズ・デザインの決定

PR板は、マスコット部分、企業名及び多摩川流域治水を推進する台詞と多摩川に関する豆知識の構成とすることと決め、板サイズ及びフォントサイズについては、紙で作成したものを実際の標識にあわせて確認し、決定した。多摩川豆知識については川崎フロンターレ案で多摩川クラシコを記載することとなったが、これに伴い対岸の東京側については、FC東京バージョンとするアイデアが提案され、これを採用することとなった。



図-6. PR板のデザイン



図-7. リニューアル後の河川名標識（川崎市側）



図-8. リニューアル後の河川名標識（大田区側）

6. お披露目式の開催

多摩川クラシコ直前の日曜日、9月11日の多摩川清掃活動「通称：多摩川エコラシコ」後に、お披露目式を開催することとしたが、マスコミへのお知らせや各種調整については、川崎フロンターレが段取りすることになった。このお披露目式には、川崎フロンターレの社長、監督、主将、ふろん太、FC東京の東京ドロンパ及び川崎市長、とどろき水辺の楽校、京浜河川事務所長が出席し、多数のサポーターとマスコミが見守る中、盛大に開催された。

当日の様子は、テレビ放送や新聞、SNS等で多くの人々が目にすることとなった。また、多摩川クラシコ当日には、このリニューアルされた河川名標識をバックに自撮りしていただいた方に、まんじゅうをプレゼントという企画を川崎フロンターレが実施したことで、多くの方に河川名標識を撮影いただいた。

7. まとめと今後の課題

今回、河川名標識のリニューアルの機会を捉えて、広報機能を付与すべくコラボを試験的に実施したものであるが、普段は河川事業に関心のない方への訴求効果など、そのPR効果は非常に大きかったと考える。落書き等で見苦しい河川名標識は他にも多数存在しており、これらの補修（リニューアル）にあたっても、河川事業のPRに繋がるように関係者と連携のうえ実施してまいりたい。また河川名標識以外の河川管理施設についても、PR等の有効活用について検討を行うとともに、河川の維持管理においても企業や住民と連携・協力して実施できるような仕組みづくりなどを積極的に取り組んでいく。

おわり